

「いきいきと生きていくために」
— 歯・口の健康づくりからはじめよう —

淀川区学校保健協議会

1 淀川区の概要

淀川区は大阪市の北部、淀川の北岸と神崎川の南岸に挟まれた位置にある。古くより淀川の渡し、能勢街道などが通り栄えてきたが、現在では新大阪駅をはじめ、JRの東海道本線、JR東西線、阪急電鉄各線、大阪市営地下鉄御堂筋線、国道176号線、新御堂筋などがあり、交通の要衝になっている。また、大規模な区画整理による近代的な都市づくりや淀川を渡る幾つかの橋梁の建設によりめざましい発展を遂げてきた。

かつては大手製薬会社が多くあったが、今は機械器具製造業、金属製品製造業が盛んである。また、阪急十三駅界隈の飲食業、新大阪駅近郊の卸・小売業など商業活動が活発である。

市立の学校園数と在籍数は、幼稚園3園249人、小学校17校7144人、中学校6校3217人で、大阪市の中でも比較的多くの学校園を抱える地域である。古くから代々住み続け、園児・児童・生徒の移動が少ない地域がある一方、マンションの建設が著しく在籍数が急増している地域もあり、今後とも変化を重ねていくと思われる。

2 歯科保健の実態

淀川区の子どもは、全国と比べても平均

的な子ども像や健康状態であると言える。歯・口の健康状態についても、過去に歯・口の健康づくり推進指定校や大阪市学校保健会「健康づくり推進事業」指定校、全日本よい歯の学校表彰を受けた学校があるものの、特別に歯・口の保健指導を活発に行ったり、歯・口の健康状態が優れていたりしているわけではない。

歯みがきに関しては、昼食後の一斉指導を行っているのは、幼稚園は全園だが、小学校は17校中6校、中学校は0校である。小学校でみがいていた子どもも、中学校になったと同時にみがかなくなってしまうのが実情で、よい習慣の継続化・定着化が課題になっている。

DMFT指数に関しては、平成20年度の結果によると大阪市の平均よりも少ない学年が多く、永久歯のむし歯は比較的少ないと言える。しかし、COが目立ち始めたことに伴い、健全歯の割合が減りつつある傾向にある。

むし歯の治療状況は80%を越える所から20%ほどしかない所まであり、学校園によってかなりばらつきが見られる。このことより、本人や保護者の歯の治療に対する意識の違いに大きな差が生じていると考えられる。

3 研究の概要

【研究主題】

「いきいきと生きていくために」
一歯・口の健康づくりからはじめよう

【設定の理由】

生活習慣病が増加しつつある今日、「子どもの頃から望ましい生活習慣を身につけておく」ことは健康教育の中でも最も重要な課題である。早い時期から自分の健康に目を向け、健康上の問題を考え、対処できるような態度や習慣を身につけるようにする。それが基盤となって生涯にわたる健康な心と体の保持につながるのである。

むし歯や歯周病をはじめとする歯・口の疾病も、子ども時代からの食事や生活習慣が影響して発生することが多く、生活習慣病の一つと言われている。この「歯・口」という部位は、①子どもから大人へ成長していく過程で、明らかな変化を遂げていく。②自分自身が触れたり観察したりしやすい。③望ましい生活行動が健康への成果になって現れやすい。④すべての人が、毎日必ず関わりを持たなければならない。このことより、歯・口は心や体全般の健康づくりの導入として、特に生活習慣病の予防の基礎的な題材として非常に適していると考えられる。

さらに、歯・口の様子は、生育歴や食生活、清潔の習慣、家庭環境、本人や家族の健康に対する意識等を示すバロメーターとなる。歯・口の指導を通して、子ども一人一人の健康生活の実態に迫ったり、望ましい生活行動への変容や継続を可能にしたりすると期待している。

【めざす子ども像】

「歯・口の健康を喜び、自分の力で心と体の成長を大切に育むことができる子」

【設定の理由】

淀川区の子どもたちの健康問題も多岐にわたっており、解決に困難を要するものも多い。とりわけ生活習慣病に至っては、今現在症状が見られないために、問題を自分のこととして捉えにくいようである。そこで、この区が本研究事業の指定地域になったことをきっかけに、これまで各学校園で行ってきた健康教育の取り組みに「歯・口の健康づくり」の視点を加えていくことにした。子どもたちの成長と共に変化し、毎日自分が必ずケアしなければならない歯や口は、健康づくりの絶好の入り口である。

今後続いていく子どもたちの人生が「いきいき」としたものになることを目指し、積極的に健康づくりに励むよう導いていきたい。そのためには、「こうなりたい」「こう生きたい」と心から思う気持ちや意欲を育て、実践へとつなげたい。自尊感情を養うことができる場所が「歯・口」だと考える。

【研究を進めるにあたって】

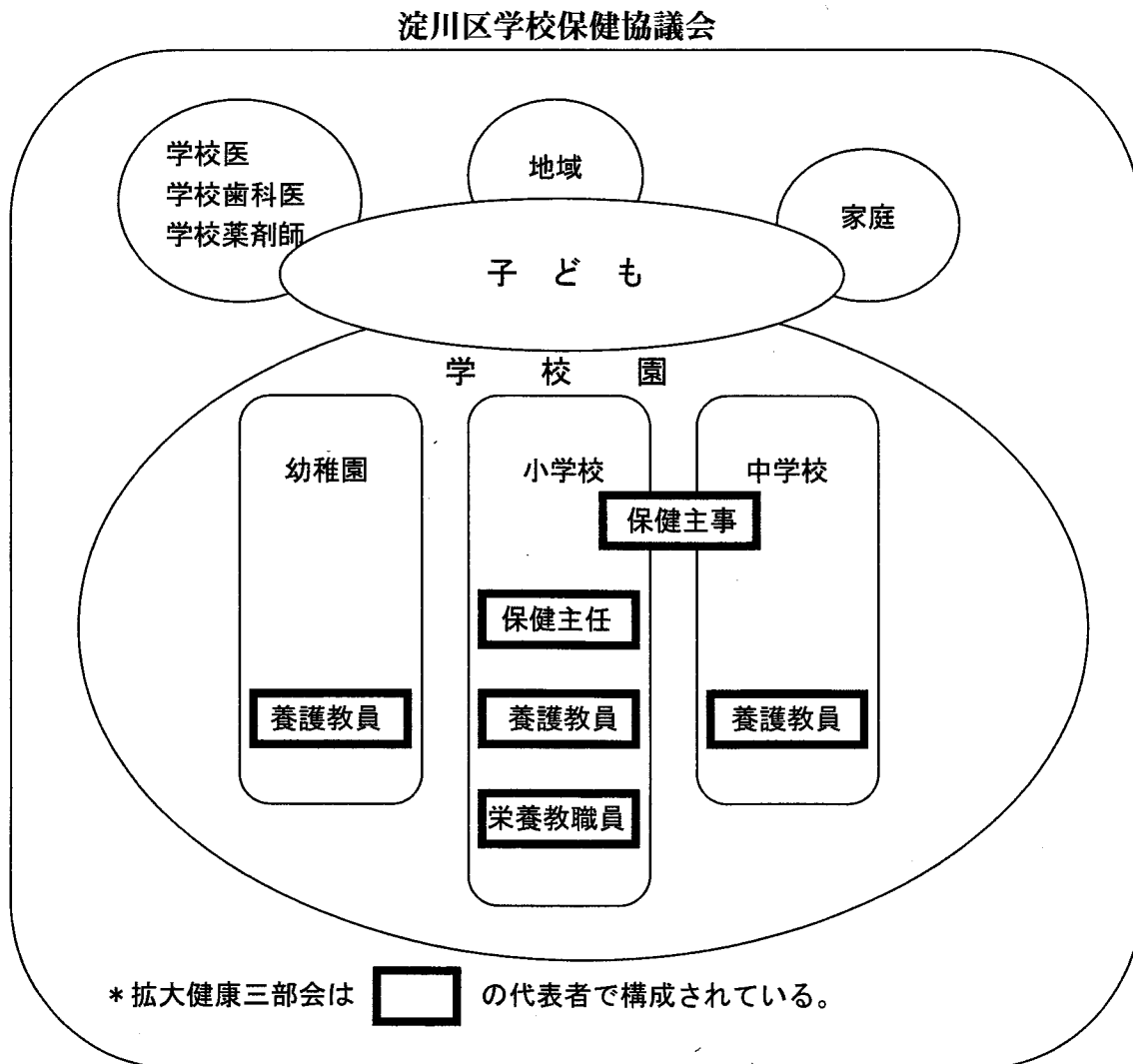
淀川区は①学校園数が多いため、保健関係教職員が一同に会することは難しい。②交通網が複雑で交流しにくい。③保健主事会、養護教員会、保健主任会、栄養教職員会が幼稚園、小学校、中学校別に確立されており、各組織で別々の題材を研究していた。これらの事情により、この研究を進めていくのは容易ではな

かった。

そこでまず、淀川区学校保健協議会を基盤にし、「拡大健康三部会」と銘打って、それぞれの研究組織の代表者が集まり、話し合いの場を持つようにした。同じ主題で研究に取り組むことが初めてだったため、まず研究の主旨から説明を受け共通理解するようにした。その上で、それぞれの立場で研究を進め、代表者が中心となって資料や情報を交換し合い、「交流」や「連携」につながるようにしていったのである。

研究を始めるにあたり、同じ校種であっても他の所の実態（例えば、う歯率、治療率などの数値的な実態や歯みがきの実施などの健康教育活動の実態）は把握していなかったため、歯・口に関わっているいろいろな実態把握に努めるようにした。「調査研究事業」ではあるが、改めて大掛かりな調査をするのではなく、既存の資料をもとに淀川区の実態を知り、それを分析することで、研究の足掛かりとしたのである。

【研究組織】



4 研究の経過

月	研究会・研修会等	内 容
7月	・区小学校養護教員部会	・大阪市教育委員会より本研究についての説明
8月	・拡大健康三部会 ・区栄養教育推進事業打合せ会	・拡大健康三部会の立ち上げ ・大阪市教育委員会より本研究についての説明 ・研究の進め方の検討 ・取り組みの検討
9月	・区の歯科保健の実態調査 ・幼稚園保健研究部	・歯科保健の取り組みのアンケート調査や既存の統計類の回収 ・各園の歯に関する取り組みの報告
10月	・区小学校養護教員会 ・区小学校保健三部会	・各校の歯科保健の取り組みの報告 ・新大阪歯科衛生士専門学校・歯科技工士専門学校の見学
11月	・区小学校保健主任会 ・区栄養教育推進事業打合せ会	・大阪市小学校教育研究会保健部授業研究会「歯の保健指導」の参加 ・小学校第5学年学習指導案の検討 ・小学校PTA 試食会講話内容の検討
12月	・区小学校養護教員会 ・拡大健康三部会	・指導実践に関する分担グループの協議 ・全国学校保健研究大会、歯科保健に関する分科会参加者の伝達講習 ・研究内容の検討
1月	・学校保健委員会研修会	・区内小学校、学校保健委員会「歯と口の健康について考えよう。」の見学・研修
2月	・区小学校養護教員会	・区内歯科校医による講話・研修
3月	・区学校保健協議会研修会 (予定)	・財団法人ライオン歯科衛生研究所の歯科衛生士による講演・研修